

花の庭だより⑭

平成24年10月1日号
森と水のアウトドア体験広場
駒ヶ根高原こまくさ橋北
0268・85・0455

9月下旬の「花の庭」はピンクと白で織りなす優しい景色が展開しています。ツリフネソウ、シュウカイドウ、シュウメイギク、河原ナデシコもみんな、ピンクと白のコラボレーションで、和みと癒しを醸しています。

可憐さつつまじさが身上の野の花の中で異彩を放っているのが彼岸花です。此岸でなく彼岸(あの世)に咲く花というのが名前の由来です。別名は極楽浄土に咲く赤い花という意味の曼珠沙華(まんじゅしゃげ)。秋彼岸のころ、忽然と花茎を伸ばして咲き、彼岸が過ぎればかき消すようになくなります。その咲き方の異様さから「死人花」「幽霊花」など「死」を連想させる名のほか、「狐のたいまつ」「狐草」「狐のおうぎ」など狐に関する名前など異名が多い花です。万葉集では「いちし」と呼ばれ「みちのくの 壺師(いちし)の花のいちしろく 人皆知りぬ 我が恋妻を」と詠われ、万葉人には恋の花だったようです。



ツリフネソウ



シュウメイギク



シュウカイドウ



ヒガンバナ

花の庭トピックス



9月15日はボランティアの日。イベントやお義理が重なり、参加者は9人と少なかったのですが、男性は立木の剪定、女性軍は草取り「カールの思い出花壇」の開墾作業と、ハードな活動に快い汗を流しました。

文責 大口国江